

別紙様式2

鞍手地区点検評価委員会の意見書

令和 7 年 11 月 14 日

鞍手町教育委員会 殿

点検評価委員会

委員 福岡教育大学教授

豊島啓司

委員 宮若市

下田和子

委員 鞍手町

石松和彦

委員 小竹町

谷川 龍児

令和6年度の貴教育委員会の運営状況について、点検及び評価をしましたので、別紙のとおり意見を報告いたします。

記

	点検及び評価に関する委員会の意見
教育委員会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 委員会の運営及び委員活動については、概ね良好に実施運営されている。
教育施策の主要施策の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統合小学校に向け、オンラインを活用した児童交流による教職員の ICT 活用力の向上及び均一化、児童同士の人間関係づくりへの取り組みを行う。 ○ 適応指導教室（鞍手町教育支援センター）の運営 ○ 剣南小学校仮設校舎設置に係る教育環境の充実と安全の確保 ○ 住民ニーズに応じた公民館講座実施による参加人数の増加
取組・事業の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 徹底反復学習等の取り組みも重要ではあるが、新教育課程にある資質能力育成に向け、「知ろう」「学ぼう」から「できるようになる」の探求型学びへの転換に、より取り組んでいただきたい。 ○ ICT 教育推進においては、昨年度より進んだ計画が設定されており評価できる。一人一台端末をより有効に活用するため、ICT 支援員の配置を充実させ、児童生徒・教職員のスキルアップをフォローしていただきたい。 ○ 数名の生徒は適応指導教室への登校から、不登校が解消され復学。全国的に今後も増加が見込まれることから、鞍手中学校校内支援センターのノウハウを小学校にも活用したり、適応指導教室でどのように進めたかを見える化したり、成果の持続に努める。 ○ 児童生徒の熱中症対策や教職員の負担軽減の観点から、水泳事業やプール管理に係る民間委託を検討して欲しい。 ○ 給食費の無償化について、完全無償化導入は全国で3割程度と認識している。財源確保も大変だと思うが、国も無償化への動きがあるようなので是非実施していただきたい。 ○ こども広場は、利用も多くにぎわっている。管理運営面・安全面からも良い環境整備であると評価する。

令和6年度 教育委員会点検及び評価表 (鞍手町教育委員会)

教育委員会の開催状況

定例教育委員会	<p>開催回数： <u>10</u>回</p> <p>議決事項： <u> </u>件</p> <p>【内訳】</p> <p>条例・規則等 <u>2</u>件、予算案 <u> </u>件</p> <p>方針・計画等 <u>10</u>件、人事案件 <u>5</u>件</p> <p>委員等の任命・委嘱 <u> </u>件、</p> <p>その他 <u>33</u>件</p> <p>協議事項： <u>6</u>件（ 学力検証等）</p> <p>報告事項： <u>27</u>件（ 統合小学校等）</p> <p>【研修等委員会協議活動以外の内訳】</p> <table><tr><th>内 容</th><th>実施回（日）数</th></tr><tr><td>小中学校訪問</td><td>2</td></tr><tr><td>入学式卒業式、運動会</td><td>6</td></tr><tr><td>学力検証会議</td><td>3</td></tr><tr><td>辞令交付式・少年の主張・二十歳の集い</td><td>4</td></tr></table>	内 容	実施回（日）数	小中学校訪問	2	入学式卒業式、運動会	6	学力検証会議	3	辞令交付式・少年の主張・二十歳の集い	4	<p>（評価・課題等）</p> <p>・定例会のほか、内容に応じて臨時会を開催し、議題に対し活発な議論を行った。</p> <p>・本町の教育委員の構成は、男性2人、女性2人となっている。令和6年10月で任期満了の委員から辞職の申し出があったが、後任として新たな委員を任命し、欠員が出ることなく実施した。</p>
	内 容	実施回（日）数										
小中学校訪問	2											
入学式卒業式、運動会	6											
学力検証会議	3											
辞令交付式・少年の主張・二十歳の集い	4											
臨時教育委員会	<p>令和6年8月 第1回臨時教育委員会</p> <p>開催理由：令和7年度使用中学校教科用図書選定について</p> <p>令和6年7月 総合教育会議（定例委員会と同日開催）</p> <p>開催理由：部活動のあり方、不登校の問題、英語教育について</p>	<p>（評価・課題等）</p> <p>・首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育課題やあるべき姿を共有して、鞍手町が掲げる「生きる力を育む教育環境の確保」に向け、一層民意を反映した教育行政を推進するため、総合教育会議を行った。</p>										

事業の区分

1 確かな学力の育成

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①学力の向上 ①徹底反復・集中速習による基礎学力の定着と活学力の育成 ②学力向上プランの活用促進(R・P・D・C・A) ③授業の工夫・改善と授業時数の確保 ④少人数指導等による個に応じたきめ細かな指導の充実 ⑤英語教育の充実と、ALT等を活用したコミュニケーション能力の育成 ⑥学力向上に向けた研究推進 ⑦特色ある教育活動の推進	<p>(関連予算額 1,292 千円)</p> <p>○ 全児童用に全漢字ドリル等の教材を購入し、全小中学校で徹底反復学習に取り組み、集中力及び基礎学力の向上や定着に取り組んでいる。</p> <p>○ 学力向上推進委員会を設置し、全国学力学習状況調査・福岡県学力調査・町学力調査の結果を踏まえて、各学校での成果や課題を明らかにし、学力向上推進を図っている。</p> <p>(関連予算額 10,925 千円)</p> <p>○ 2名のALTが小・中学校を巡回して英語授業に参加することで、児童生徒がネイティブの発音を体験し、併せて英語でのコミュニケーション能力育成が行えている。ALT2名ともR6年8月からの新規であるが、日本の慣習や文化、語学力に長けており、例年になく児童生徒との交流がスムーズである。</p>
②ICTの活用等による新たな学びの推進 ①GIGAスクール構想による教育環境の整備と研修 ②ICT機器の計画的整備と積極的活用 ③プログラミング的思考能力の育成 ④情報モラル教育の推進 ⑤緊急時のオンライン学習に向けての準備と研修	<p>(関連予算額 16,073 千円)</p> <p>○ 「ICT教育推進委員会」において、1人1台端末の活用方法や、夏休みにおける家庭への持ち帰り等に向けた検討等を実施。また、教職員内でもICT活用力に差異があるため、情報共有や研修実施等スキルアップにつながる取り組みについても検討を行っている。R7に教職員研修実施予定。</p> <p>○ 1人1台タブレットを活用し、デジタル百ます計算、英単語のタイピング、マイクラフトを使ったプログラミングを本格的に導入(剣南小についてはR7開始予定)。タイピング力はCBT対策にも必須であり、様々な側面から学力向上に取り組んでいる。</p>

※説明資料等あれば挿入

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(1) ① 徹底反復・集中速 習による基礎学 力の定着と活用 力の育成	小学校における徹底反復学習の 取り組み	6校	6校	○
(1) ⑤ 英語教育の充実 と、ALT 等を活用 したコミュニケー ション能力の育成	ALT の配置	2名	2名	
(2) ① GIGA スクール構 想による教育環 境の整備と研修	ICT 支援員の配置	7校	7校	
(2) ② ICT 機器の計画 的整備と積極的 活用	授業支援ソフトの導入	7校	7校	

事業の区分

2 豊かな心の育成

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①豊かな人間性の育成 ①「特別の教科 道徳」の授業改善・充実 ②キャリア教育、体験活動の推進 ③読書活動の推進	○ 道徳教育中核教員、各校の道徳教育推進教員を中心に研修を実施し教員の道徳科の指導力向上を推進した。 ○ 令和7年度の教科書改訂に伴うカリキュラム編成に関する資料の提供を行い、道徳科のカリキュラム編成にあたる教務担当者会への支援を行った。 ○ 鞍手中学校、小学校2校(剣北小・古月小)において、多数の地域の職業人を招いての「キャリア教育夢授業」を実施した。 ○ 鞍手町教育委員会の司書を、要請のあった小学校に派遣し、学校図書の整理・整備、委員会活動支援を行い読書活動の充実を図った。
②学校教育における人権教育の推進 ①人権教育推進体制の充実と意図的、効果的な人権教育の推進 ②人権・同和教育実践交流会や新転任者教職員研修会、各種研修会への参加奨励 ③人権を尊重した教育活動の展開及び指導方法の工夫・改善 ④一人一人の学力と進路の保障を目指した取組の充実 ⑤地元教材の活用推進	○ 各小中学校において、人権教育に対する教職員の認識・意欲高揚のため、年間を通じて研修を実施している。また、各小中学校で、各教科・道徳・特別活動を関連付けながら特設の人権学習の時間を設けている。 (関連予算額 561 千円) ○ 町の実態を基にした地元教材づくりを進めている。鞍手町人権教育地元教材として、4年生「笑顔になれる町」、5年生「炭坑マップ」の教材冊子の改訂版を制作した。令和2年度から行っている授業検証を踏まえ、令和7年度は小学校3年生を対象とした教材冊子の改訂に取り組む。

<p>③生徒指導の充実</p> <p>①学級経営の充実</p> <p>②基本的な生活習慣の定着</p> <p>③道徳性の向上と規範意識の育成</p> <p>④家庭・地域との連携強化</p> <p>⑤いじめ・不登校児童生徒の未然防止と早期発見・対応の組織的な取組の推進と小中の連携</p> <p>⑥スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーターの活用</p> <p>⑦適応指導教室の運営</p>	<p>○ 県が小中学校にスクールカウンセラーを配置しており、学校や教育委員会で連携を取りながら、いじめ・不登校問題の解決に向けて取組を行っている。</p> <p style="text-align: right;">（関連予算額 3,120 千円）</p> <p>○ 町単費でスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめや不登校、虐待、貧困など、学校や日常生活における問題に直面する子どもの支援を行っている。</p> <p>○ 教育相談員2名による適応指導教室の運営を引き続き行った。来室できない場合も、児童生徒・保護者と連絡を取り合いながら、心身の状態確認や家庭での学習状況を支援している。小学生5名、中学生3名入室のうち、小学生2名、中学生1名の不登校が解消し、通学できるようになった。</p>
--	--

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(2) ⑤ 地元教材の活用 推進	町の実態を基にした人権教育の 教材の作成	2件	2件	◎
(3) ⑥ スクールカウンセ ラー、スクールソ ーシャルワーカー 、スクールサポ ーターの活用	SC、SSWの配置校数	7校	7校	

事業の区分

3 健やかな体の育成

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①健康・安全指導の充実 ①学校における感染症予防対策の徹底 ②健康と体力の維持増進 ③学校生活における児童生徒の安全確保と指導 ④体力向上プランの活用促進 ⑤登下校時における児童・生徒の安全確保 ⑥防災教育の充実	○ 各小中学校で体力向上プランを作成し、体力向上に取り組んでいる。また「1校1取組」を作成し、重点化した実践を行った。 ○ 登下校時、児童生徒の安全確保のため鞍手町青少年育成町民会議が協力し、青色防犯パトロール活動を行っている。 （関連予算額 33,595 千円） ○ 中学校において、令和2年度から実施しているスクールバスによるバス通学を継続した。 ○ 通学路の改善要望があった箇所について、鞍手町通学路安全推進会議を開催し、直方警察署と直方県土整備事務所等の関係機関と協議を行った。改善できた箇所もあるが、設置条件に合致しないものや用地買収等を伴うものがあるため、改善ができないものもある。
②学校給食の衛生管理と指導の徹底 ①学校における衛生管理の徹底 ②食物アレルギー対策の徹底 ③食育の推進と給食指導の充実 ④地産・地消の推進 ⑤給食センター施設のあり方についての検討	（関連予算額 36,013 千円） ○ 平成30年度から調理・配送業務の民間委託を実施し、学校給食を安全かつ安定的に提供する体制を確立している。前回と同様に公募型プロポーザル方式により選定された委託事業者と令和6年度から令和9年度までの4ヵ年契約を交わし、安心・安全な学校給食の提供に努めた。 ○ 栄養教諭と各学校が事前に訪問指導計画を立てることにより、食育や給食指導に関する授業並びに衛生管理の指導や活動に取り組むことができた。 ○ 給食センターの施設については、令和10年4月開校予定の統合小学校整備事業の中で、共同調理場を併設する予定で、食育に繋がるための献立の多様化に対応できる共同調理場を検討している。また、新たな施設での事業実現に向けての準備を進めている。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(1) ① 学校における感 染症予防対策の 徹底	学校内感染の発生件数	0件	0件	○
(1) ⑤ 登下校時におけ る児童・生徒の安 全確保	中学校開校日におけるスクール バスの運行の実施	100%	100%	
(2) ① 学校における衛 生管理の徹底	給食時間における手洗いの指導 推進及び給食当番の健康チェッ クの実施の徹底	7校	7校	
(2) ② 食物アレルギー 対策の徹底	各校と連携し、対象児童・生徒の 保護者へ詳細献立表を毎月配 布する	11 回	11 回	
(2) ③ 食育の推進と給 食指導の充実	栄養教諭と連携した各校での食 に関する指導の実施	7校	7校	
(2) ④ 地産・地消の推進	学校給食における鞍手町産食材 の積極的な利用	54%	100%	

事業の区分

4 学校指導体制の整備

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①教職員の研修活動促進と資質の向上 ①効果的な徹底反復・集中速習 ②授業研究等を通じた指導力の育成と教育実践の計画・実施と評価 ③近接学年複数担任制の試行と推進 ④協働研究・研修の推進と各種研修会への参加奨励 ⑤小・中学校の連携強化と校区連携事業の推進	○ 学力向上推進委員会を設置し、その中で鞍手町の学力に関する課題と改善のための方策を全小中学校の校長、学力向上担当者で共有し、各校で授業改善に資する教員の指導力向上研修や授業研修を実施した。 ○ 令和4年度までの研究の成果「鞍手型授業メソッド」を活用し、課題となっている「読む力」「書く力」育成のための授業改善を推進した。 ○ 鞍手地区教育研究所部会において、各教科部会への積極的な参加を推奨し、教職員の資質向上に努めた。
②教職員の職務遂行とサービスの厳正 ①教育公務員としての自覚と綱紀の厳正な保持 ②教師として使命感ある言動 ③飲酒運転、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、情報漏洩等の防止	○ 定例の校長会議の際、飲酒運転、わいせつ行為、政治的行為、個人情報などの適切な取扱い、その他信用失墜行為の禁止など、綱紀の厳正な保持について指導の徹底を図っている。また、各学校において、管理職が日常的に綱紀の厳正な保持についての指導を行っている。
③教職員の働き方改革の推進 ①教職員が担う業務の精査及び適正化 ②学校を支える体制の構築 ③教職員の業務改善と意識改革	(関連予算額 264 千円) ○ 勤怠管理システムを導入し、教職員の在校時間の客観的把握を行っている。 (関連予算額 492 千円) ○ 学校における働き方改革事業として、小学校では「学校支援ボランティア事業」に5校が取り組み、学校支援ボランティアと連携しながら進め、教職員の業務改善に取り組んでいる。 (関連予算額 1,285 千円) ○ 室木小が完全複式学級となったことによる教職員の負担軽減を図るため、町費負担の「複式学級支援員」を4名配置し、負担軽減が図られた。

<p>④教育諸条件の整備充実</p> <p>①施設・設備の充実 ②教育機器の導入と活用 ③学習環境の整備 ④統合小学校の実施計画と実施設計 ⑤特認校制度の運用 ⑥各小学校の交流推進 ⑦部活動の地域移行整備</p>	<p>(関連予算額 6,882千円)</p> <p>○ 各学校の緊急的な修繕等を実施することで、学習環境の整備を図った。</p> <p>○ LED 化が未実施であり、PTA から改善要望のあがっていた鞍手中学校の照明機器を、第三者所有方式を採用し、LED 化の予算を確保した。</p> <p>○ 4月に、令和 10 年3月末を履行期限とする統合小学校の校舎、屋体、学校給食共同調理場、放課後児童クラブ(設計のみ)の整備に関して、デザインビルド方式を採用、公募型プロポーザルにより公募し、10 月に選定した事業者と契約を締結、3月に基本設計業務を完了した。</p> <p>○ 教育委員会内に全小学校校長を委員とする鞍手町立小学校統合検討委員会を立ち上げ、学校運営、教育課程、業者・交流、公簿・備品、専門、関係団体の6部会を構成し、統合校へ円滑に移行できるよう、協議を開始した。</p>
<p>⑤学校と地域の連携・協働</p> <p>①学校評価システムの確立と学校運営の工夫・改善 ②学校・家庭・地域が一体となったコミュニティ・スクールの推進</p>	<p>○ 全小中学校で年間計画に沿って学校運営協議会を実施。学校の教育目標を基に運営委員と連携した学校評価を行い、客観性・透明性を図りながらより良い学校運営に取り組んでいる。</p> <p>○ 全小中学校が、コミュニティ・スクール4年目としての取り組みを地域との連携を大切にしながら推進している。</p>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(3) ② 学校を支える体制の構築	学校支援ボランティア事業の実施校数	6校	6校	○
(3) ③ 教職員の業務改善と意識改革	複式学級支援員の配置 (短時間勤務支援員含む)	4名	3名	
(4) ④ 小学校の在り方についての検討	統合校の開校	基本設計完了 (令和 10 年4月開校予定)	統合校開校 (規模適正化)	

事業の区分

5 特別支援教育の推進

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①特別支援教育の充実 ①インクルーシブ教育の推進 ②個に応じた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と実践 ③「障害者差別解消法」への対応と合理的配慮の推進 ④特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な取組の推進 ⑤ユニバーサルデザインの視点を活かした授業 ⑥就学相談の実施 ⑦関係機関(就学前、福祉、医療機関等)との連携強化 ⑧特別支援教育支援員の配置 ⑨通級指導教室の充実	<p>(関連予算額 49,768 千円)</p> <p>○ 特別支援学級に町費負担の「特別支援学級補佐職員」を配置しており、児童生徒の実態に応じた学習支援を行っている。会計年度任用職員の処遇改善もあり、支援に携わる職員への充実も図り、特別支援教育体制の一層の強化に努めている。</p> <p>○ 各学校において、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援学級担任と通常学級の担任が連携しながら、児童生徒の実態に応じた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・実践を行っている。</p> <p>○ 例年、保幼小の他、鞍手町保健師と合同で就学前の児童の情報を交換・共有し、一貫した指導ができるように特別支援教育連携協議会を実施した。</p> <p>○ 剣北小学校に通級指導教室を設置し、自校通級、巡回による指導により、よりきめ細かな指導を行うことができた。</p> <p>○ 鞍手中学校に通級指導教室が設置されているが、配置が非常勤講師であるため、一人ひとりの生徒への指導時間が十分に確保できていない。</p>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(1) ⑥ 就学相談の実施	希望者への就学相談の実施	25名	20名	◎
(1) ⑧ 特別支援教育支援員の配置	特別支援学級補佐職員の配置	29名	25名	

事業の区分

6 社会教育の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①社会教育振興のための諸機関の機能化 ①総合的見地に立つ施設整備策 (中央公民館1階改修工事、町立体育館、武道館トイレ改修工事) ②社会教育施設の運営と活用 ③社会教育関係団体の自主的活動の促進 ④家庭・地域の教育力を高めるための啓発・推進 ⑤子育て学習活動の推進 ⑥男女共同参画社会の啓発・推進 ⑦学社連携・融合事業の推進 ⑧学習習慣の定着を図る「鞍手町放課後子ども教室」「くらて寺子屋」の実施	<p>(関連予算額 11,836 千円)</p> <p>○ 10月末に中央公民館1階の大規模改修工事が完了した。体育施設などの公共施設は老朽化が進んでいるが、厳しい財政事情の中、なかなか環境の改善に至っていない。修繕、改修工事箇所の優先順位を検討し、順次、利用環境の改善に努める。 令和7年2月末に博物館別館の建設工事が完了した。</p> <p>(関連予算 34,681 千円)</p> <p>○ 体育施設では避難所に指定されている武道館(柔道場)・体育館のトイレの洋式化工事を行った。</p> <p>(関連予算額 115 千円)</p> <p>○ 町内の小学校2年生以上の児童を対象に「くらて寺子屋」を年間 12 回実施した。16 名の小学生と3名の学習ボランティアの参加で、学習習慣の定着に向けて自学自習を中心に取り組んでいる。</p> <p>(関連予算額 621 千円)</p> <p>○ 家庭内での親子のふれあい時間の確保や安全な下校対策を考慮し、全小学校で「放課後子ども教室」を実施し、小学生 44 名と学習サポーター12 名で進めた。さらに学校・家庭・地域の連携を推進するための広報活動を行っている。</p> <p>○ 令和6年11月より公民館横にこども広場を設置。SNS 等で情報が広がり町内外より多くの利用者が来場している。</p>

<p>②生涯学習まちづくりの推進</p> <p>①学習機会の提供と学習成果の活用の促進</p> <p>②生涯学習における人材の確保と活動の促進</p> <p>③公民館事業の推進及び活動の促進</p> <p>④図書室利用の促進と子ども読書の推進</p> <p>・お話の会、読書祭り、ブックスタート、保育園等配本の充実</p> <p>・レファレンスの強化推進</p> <p>⑤自治公民館活動の促進</p>	<p>(関連予算額 45 千円)</p> <p>○ 令和6年度は、読み聞かせ、歴史講座、ヨガ体験講座、物づくり講座の6回公民館講座を実施した。令和7年度は、幅広い年齢層を対象に、公民館講座を実施し、地域の活動に取組むよう予定している。</p> <p>○ 自治公民館連絡協議会に加入している 44 の自治公民館活動の推進のため育成費の交付、また、各自治公民館事業の推進のため活性化補助金の交付も行った。</p> <p>(関連予算額 160 千円)</p> <p>○ 保育所・こども園・幼稚園及び保健センターへ配本を行い、多くの子どもたちに絵本を提供することができた。</p>
<p>③青少年の健全育成</p> <p>①青少年育成町民会議と連携し、小学校区、自治公民館を中心とした青少年健全育成運動の推進</p> <p>②学校外生活指導の活性化</p> <p>③子ども会育成の推進</p> <p>・リーダー研修会、子どもフェスタ、スポーツ大会等の実施</p> <p>④いじめ防止の推進及びアンビシャス運動の推進</p>	<p>(関連予算額 1,040 千円)</p> <p>○ 青少年の健全育成に向け、地域と連携しながら、青色回転灯防犯パトロール活動を実施した。10月には青色防犯パトロール車推進大会を行った。12月に講師を招き青少年健全育成講演会を実施した。</p> <p>(関連予算額 160 千円)</p> <p>○ 「野外生活リーダー研修」はかぐめよし自然の家へ子ども 8 名・指導者 16 名で参加。様々な体験活動を通じ、話し合いながら仲間たちとのコミュニケーションを図り、団体生活の中で必要な協働の精神を養い、各地区の子ども会のリーダーの養成を行った。</p> <p>「子どもフェスタくらて2024」は、総合福祉センター周辺で行い延べ 2,641 人の来場があった。</p> <p>「体育大会」ではニュースポーツ「スローイングビンゴ」を実施、45名の参加があった。</p> <p>○ 青少年育成町民会議では、7 月のいじめストップ月間では、いじめに関する、チラシ及び啓発物(花の種)を学校を通じて全児童に配布している。</p>

<p>④生涯スポーツの振興</p> <p>①健康と体力づくりを目指した、スポーツの振興・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会主催事業等の参加奨励によるスポーツの振興 ・健康づくり、体力づくり意識の普及と浸透 ・ニュースポーツの普及と推進 <p>②スポーツの日常化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育施設活用の促進 <p>③自主的スポーツ団体の促進と支援</p>	<p>(関連予算額 799 千円)</p> <p>○ 町体育協会では、8団体312名が会員として活動しているが、団体によっては会員の減少により活動の低迷が見られる。</p> <p>(関連予算額 25 千円)</p> <p>○ 町のスポーツ推進委員と町の文化財に触れる、史跡巡りとウォーキングを年2回開催し町民との健康づくりを行っている。</p> <p>○ 町民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康で楽しく暮らしていけるような施設の提供及び管理運営に努めているが、各施設の老朽化が進み、一部修繕、改修工事が必要な箇所が多く見られるため、今後も計画的な修繕工事を実施していく。</p> <p>○ 施設予約については、インターネットの活用により平日の時間外及び土・日・祝日においても予約が可能であり、住民サービスの向上につながっている。</p> <p>○ 令和6年12月末の福祉センター廃止に伴い、1月より体育館の管理・運営業務の所管変えが行われ教育課の管理となり利用者の不都合がないよう引継ぎを行った。</p>
<p>⑤社会教育における人権・同和教育の推進</p> <p>①人権教育に関する講演会・学習会等の実施や啓発活動の推進</p> <p>②鞍手町人権・同和教育研究協議会の取組の推進</p> <p>③鞍手町人権子ども会の育成</p> <p>④鞍手町人権教育・啓発基本計画の策定</p>	<p>(関連予算額 272 千円)</p> <p>○ 町内の各小中学校の合計7ヶ所で人権問題地区学習会を開催し、全体での 781 人の参加があった。</p> <p>(関連予算額 429 千円)</p> <p>○ 5月の人権教育学級、7月の同和问题啓発強調月間、12月の人権週間の集い講演会を行った。</p> <p>(関連予算額 1, 172千円)</p> <p>○ 年間を通して、県及び町の講演会、研修会へ参加、学校部会と連携し、あらゆる差別の撤廃に向け教育・啓発の取組を行っている。</p> <p>(関連予算額 1,312 千円)</p> <p>○ 小中学生を対象とした人権子ども会を5月より実施し、学習や体験活動を通して、人権啓発の取組を充実させることができた。今後も継続していく。</p>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(1) ① 総合的見地に立つ施設整備の構築(中央公民館改修工事)	中央公民館の改修工事 (内部改修実施設計)	令和6年10月 末に完成	令和6年度 (改修工事)	○
(1) ⑧ 学習習慣の定着を図る「鞍手町放課後子ども教室」「くらて寺子屋」の実施	「鞍手町放課後子ども教室」の実施校数 「くらて寺子屋」の参加人数	6校 16 人	6校 20 人	
(2) ① 学習機会の提供と学習成果の活用 の推進	公民館講座の参加人数	164 名 (6回実施)	120 名 (7回実施)	
(3) ① 青少年育成町民会議と連携し、小学校区、自治公民館を中心とした青少年健全育成運動の推進	青色パトロール車の台数	22台	25 台	
(5) ① 人権教育に関する講演会・学習会等の実施や啓発活動の推進	参加延べ人数	1, 372 (児童・生徒を含む)	1,200 人	

事業の区分

7 文化の振興・文化財の保護

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
①豊かな文化的環境づくり ①町民の文化活動の育成・振興 ②自主的文化団体の育成 ③各校における郷土学習の支援と促進	○中央公民館のサークル活動は、高齢化が進み会員数の減少や参加人数が減少しているため、新たな層や地元の発掘を目指して、公民館活動を推進する。令和6年度は1つのサークルが休止、3つのサークルを承認し合計21サークルとなった。 自主サークルへと移行出来るような、魅力ある公民館講座を実施することが課題である。
②文化財の保護・活用 ①無形文化財の保存の促進 ②文化財の保護と活用 ③歴史民俗博物館の充実と発展 ④博物館別館（石炭資料展示室）の建設推進	<div style="text-align: right;">（関連予算額 128千円）</div> ○指定文化財の永谷万年願盆綱引き（永谷）、六嶽神楽（室木）が開催された。これらの行事の開催にともない記録保存のため、写真、映像撮影を行った。なお各指定文化財の保存会に補助金を助成した。 ○博物館の収蔵資料の保護のため収蔵庫及び展示室の資料の燻蒸作業を行った。 ○博物館本館ロビー及び展示室の床が経年劣化のためひび割れ等をおこしていたため、床の張替えを行った。 ○博物館では、別館建設工事に伴い令和5年2月から休館となったため、他施設を活用した「とびだせ博物館！」と題した企画展を中央公民館ロビー、福岡銀行本店の一角で写真展を開催した。また、「くらて元気まつり」にて、昔の遊び体験講座を実施した。 <div style="text-align: right;">（関連予算額 98,484千円）</div> ○石炭資料展示室展示工事に向け、展示予定の石炭関連資料の補修工事を行った。博物館石炭資料展示室の展示工事を実施し、竣工した。また、博物館開館に向け、本館の展示を一新し、別館を含め開館準備を行った。 ○学校連携事業として、これまで行っている各小学校6年生の歴史を対象とした「子ども学芸員」事業に加え、5年生を対象とした「石炭の授業」を行った。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
(1) ① 町民の文化活動 の育成・振興	中央公民館のサークル数	21サークル	22 サークル	○
(1) ③ 各校における郷 土学習の支援と 促進	郷土学習支援校数	6校 (子ども学芸員 6校・石炭授 業6校)	6校	
(2) ① 無形文化財の保 存の促進	無形文化財の実施及び記録保 存等の支援	2団体	5団体	
(2) ② 有形文化財の保 護と活用	史跡等の環境整備	4箇所	4箇所	
	史跡等の見学案内	1回	2回	
(2) ③ 歴史民俗博物館 の充実と発展	教育普及(企画展)の実施	3回 (小規模)	2回	
(2) ④ 博物館別館(石炭 資料館)の建設推 進	博物館別館の開館 (展示工事)	令和6年度 (展示準備、 展示工事)	令和7年度 (開館)	